



奈緒ちゃんに逢いに来ませんか？

(演出・伊勢真一)

「この子は長く生きられない…」医者にそう言われた、と姉が長女・奈緒ちゃんのことを私に話してくれたのは、奈緒ちゃんが2才か3才の頃だったか…。てんかんと知的な障がいを合わせもっていたのです。無力だった私は何もしてあげられませんでした。

自分に出来ることは映画を創ることだ。家族のアルバムのような記録を撮って、お母さんとお父さんと弟の記一と、奈緒ちゃん、一家四人にだけ観てもらう、そんなショートフィルムを創ってみようと思いついたのは、奈緒ちゃんが小学校に上がって間もなくのこと。8才の正月にカメラは回り始めました。

撮るべきものは“元気な奈緒ちゃん”。

奈緒ちゃんがそこに居て、笑っているだけでいい。生きているだけでいい…。ただただ奈緒ちゃんを撮るといふ素朴な記録、テーマなんか知ったことか。奈緒ちゃんに逢いに、スタッフと通い続けました。

奈緒ちゃんが生まれ、奈緒ちゃんが育んだ、「しあわせ」。気がついたら12年の歳月が流れ、完成した映画『奈緒ちゃん』は、思ってもいないような評価を受け、全国各地で自主上映の輪が広がって行ったのです。

しかし、“元気な奈緒ちゃんを撮る”という課題は、まだ終わりませんでした。何故なら、奈緒ちゃんはどうも元気がなくなり、奈緒ちゃんを育てながらお母さんもまた、元気になっていったからです。お母さんは、障がいのある子どもをもつ仲間たちのリーダーとして、「びぐれっと」と呼ばれる地域作業所を立ち上げ、地域の中で、奈緒ちゃんや障がいのある子どもたちを育てる活動に取り組みます。

そして奈緒ちゃんは、やがて「びぐれっと」が作ったグループホームで暮らし始め、自立します。

私はその過程を映画『奈緒ちゃん』の続編として『びぐれっと』『ありがとう』という二本のドキュメンタリー映画にまとめました。

それでも撮影を止めませんでした。“元気な奈緒ちゃんを撮る”という約束を果たすために。

そして気がついたら、撮影を始めてから35年の歳月が積み重ねられていたのです。

「長くは生きられない…」と言われた奈緒ちゃんがしっかりと生き続けた事実を観てもらわなければ、「生きたぞ！」「生きてるぞ！」と言わなければ、と思いついたのは、2016年の夏でした。

「奈緒ちゃんが生まれたから、生きたから、たくさんのいのちが生きた。」

そして奈緒ちゃんは元気です。44才になります。

“元気な奈緒ちゃんを撮る”。奈緒ちゃんに逢いに行く旅は、まだまだつづきます。

「元気？」
奈緒ちゃんに逢いに来ませんか？

伊勢真一(いせしんいち)
ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。奈緒ちゃんの叔父にあたる。長編ドキュメンタリー映画のデビュー作は、8才の奈緒ちゃんとその家族に寄り添い12年間を記録した映画『奈緒ちゃん』(1995年)。この作品で、毎日映画コンクール記録映画賞グランプリ他多数を受賞。その後も長きにわたり撮影を続け「奈緒ちゃんシリーズ」として『びぐれっと』(2002年)、『ありがとう』(2006年)を製作。2017年の本作はシリーズ第4弾となる。

千代田区立 日比谷図書文化館 B1F 日比谷コンベンションホール

千代田区日比谷公園1番4号(旧・都立日比谷図書館)

- 東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
- 東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
- 都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分

※専用の駐車場はありません。日比谷公園地下公共駐車場をご利用ください(有料)。
※上映・イベント内容へのお問合せは日比谷図書文化館ではなく、下記お申込窓口宛にお願いいたします。
いせフィルム：TEL. 03-3406-9455 FAX. 03-3406-9460 E-mail. ise-film@rio.odn.ne.jp



《次回》2017年 11月 18日(土) 開催予定

プログラム1 『風のかたち ドクター編』上映

プログラム2 『妻の病ーレビー小体型認知症ー』上映+トーク

※トークゲスト：細谷亮太さん(小児科医)

※詳細は決まり次第、いせフィルムのホームページやフェイスブックに掲載させていただきます。